

## さまざまな魅力が詰まった のぼりべつクマ牧場

ヒグマでは珍しい白っぽい毛が特徴的な『ニイサ』や大きな体躯で圧倒的な力を示し、6年連続でボスグマとして君臨する『ダイキチ』など、牧場内で生活する約80頭のクマたちが見せる豊かな表情や愛らしい姿を求めて、毎日、市内外から多くの人が訪れる『のぼりべつクマ牧場』。

60年前の昭和33年7月17日、エゾヒグマの保護や観察、研究を目的として、登別温泉街や倶多楽湖などを望む四方嶺の頂きに国内で初めてとなるクマ牧場が誕生しました。

昭和56年からのぼりべつクマ牧場に勤務している上野さんは、「北海道のみに生息するヒグマを集団飼育する牧場内では、個性豊かなクマたちが一頭一頭、安全安心に生活できるよう、常駐する獣医や飼育員などが注意を払いつつ、ボス争いや出産、冬ごもりなどの生態について研究しています。現在では、クマに負担をかけないよう麻酔を使用せずに治療する研究などを進めています」と教えてくれました。

ヒグマの習性や生息範囲、クマ



▲のぼりべつクマ牧場の歴史や現在の取り組みについて語る上野さん

の起源や歴史などに関する資料約500点を展示している日本に唯一の『ヒグマ博物館』などもあり、楽しみながら学ぶ施設として、多くの方に愛されています。

### 地域とともに

登別市を代表する観光施設の一つとして多くの観光客を迎えてきたのぼりべつクマ牧場では、より地域の方に親しみをもっていただけけるよう、市民の皆さんを対象とした取り組みも行っているといい、「市内の小学生が牧場内の巡回や飼育員としての作業などを体験する『一日園長・副園長体験』は、今年で10回目を迎えました」と上野さんは笑顔で話してくれました。今年度は、子グマの遊具作り体験を実施するなど、新たな魅力づくりに取り組んでいる『のぼりべつクマ牧場』。これからも地域の皆さんにますます愛される施設として成長していきます。



KIRARI

## ニイサ (のぼりべつクマ牧場)

登別温泉街の中腹から、少し登ったところにあるロープウェイ乗車口。約7分の空中散歩を楽しんだ後に見えてくるのが『のぼりべつクマ牧場』です。

今回は、平成30年7月で開園から60年を迎えた『のぼりべつクマ牧場』の魅力を探ります。

## 登別市で、クマと共に 60年



平成4年、のぼりべつクマ牧場生まれ。26歳。のぼりべつクマ牧場で、平成23年から実施している雌グマの人気投票『NKB総選挙』で、2年連続、5度目の1位となった人気のクマ。詳しくは、『のぼりべつクマ牧場』のウェブサイト (<https://bearpark.jp/>) をご覧ください。